



1979 年頃

「あーあ。早く元気になって、外で遊びたいな」

メルは、窓の外をながめて そっと 言いました。

外は、一面の雪景色。

熱を出し もう3日も布団の中にいるメルは、  
退屈でしかたありません。

ここは、森の一本道を奥へ入ったところにある、小さな木の家。

お父さん、お母さん、長女のモン、次女のモコ、三女のマイ、  
そして小さなメルの6人家族。

この森は‘歌の森’と呼ばれ、動物たちが仲良く暮らしています。

今は冬なので、メルのお父さんは 街へ出稼ぎに行っています。  
来年の春には お土産をたくさん抱えて帰ってくることでしょ。

メルには幼稚園バッグ、マイにはランドセル、モコには絵の具セット。  
絵の具セットは4年生から使うのです。

モンには中学生かばん、そしてお母さんには きれいなエプロン。

今、お母さんとモンは、森の奥の野菜畑へ行っています。  
白菜を入れるカゴを持って。

モコは、ふくろう先生のところへ、理科を勉強しに行っています。  
マイは、おばあさんの家に 糸をもらいに行きました。

この家には、メルひとりです。

「あっ、いいことがある！」  
メルは、いいことを思い出しました。

昨日、お母さんが「アイスクリームがあるから食べていいわよ」と、言っていたのです。

メルは、冷凍庫から バニラのアイスクリームを取り出しました。

あまあい、あまあい、アイスクリーム。  
口の中へ入れると、とろりと溶けていきます。

そのときです。

窓ガラスを トントン叩く音が聞こえてきました。

外を見ると、大きな雪のカタマリ・・・  
じゃなくて、大きな雪だるまでした。

「メルちゃん、わたしも、アイスクリーム、食べたいな」

「えっ?? うん、一緒に食べようね」

メルと雪だるまは、残りのアイスクリームを仲良く食べました。

「ねえ、メルちゃん、外に出ておいでよ。一緒に遊ぼうよ」

「うん！」

「外に出ると また熱が上がってしまうから家の中にいてね」  
って、お母さんに 言われていたのに……。

でも、メルは、ほんとは元気な女の子。

オーバーを着て 長靴を履いて、外に飛び出しました。

外は一面の銀世界でしたが、雪は やんでいました。

雪合戦に、雪の城。  
お人形をつくったり、ごちそうをつくったり。

気がついたときには、夕陽が沈もうとしていました。

「あっ、メルったらあ。外に出ちゃダメでしょ!？」

突然マイの声が聞こえてきたと思ったら、まわりには、  
雪合戦の跡もなく、つくったものも全部消えていました。

もちろん、雪だるまもいませんでした。

「あのね、マイおねーちゃん。  
メル、ここで雪だるまさんと遊んでたの。それでね……」

「ダメダメ。そんな寝ぼけたこと言っても。  
さあ、家に入るの! さあ!!」

だめでした。

首をふるマイに背中を押され、メルは しかたなく家に入りました。

クリスマスが過ぎて、一週間。

ある朝、突然、メルに小包が届きました。

直径30センチもある 丸いボックス型のアイスクリーム。  
そして、クリスマスカード。

*‘メルちゃん、だいぶ遅れて、メリークリスマス！！  
わたしからのプレゼント、受け取ってね’*

差出人の名前はありませんでした、  
メルには、その贈り主が よく わかっていました。